

平成24年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号 5 - 3 - 1

事務事業名	側溝清掃事業			担当課係	環境衛生センター
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	③生活環境への阻害要因の減少		内線等	
	小項目	2. 豊かな自然を保護し共生するまちづくり		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	1
	目	4	環境衛生費	事業	1
開始年度		年度	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市の管理する道路側溝や排水路の清掃
事業の目的（意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 市が管理する道路の付帯設備である生活側溝に溜まった汚泥・土砂を除去して、生活排水や雨水の流れを良くして悪臭や害虫の発生を防ぐ。生活環境の保全と公衆衛生の向上を目的とする事業である。
事業の内容（内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 道路管理主管課である、都市整備課に市民の方から要望のあった市道側溝や排水路の清掃を実施し、汚泥等は最終処分場において埋立処分している。
事業の背景（経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 住民の生活環境の保全と公衆衛生の向上をめざしている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	単位		H23	H24	H25	H26		将来目標 (年度：平成)
	汚泥等埋立量	ト		120	130	150		170
	目標		120	130	150	170		
	実績		123	131				
	達成度		100.0%	100.0%				

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H23	H24	H25	H26	指標の説明
	汚泥等最終処分埋立量	計画	ト	120	130	150	170	バキューム車で搬入した量
		実績		123	131			
週あたりの作業日数	計画	日	1	1	1	1	毎週水曜日に実施	
	実績		1	1				
	計画							
	実績							
	計画							
	実績							

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	23年度決算		24年度決算		25年度決算		24年度予算	
		A	直接事業費	4,610,043	3,198,679	0	3,506,000		
財源内訳	B	国県支出金							
		地方債							
		利用者負担							
		一般財源	4,610,043	3,198,679					
		人件費 ① × ②	1,663,609	1,239,961	0				
		職員平均人件費①	8,318,046	6,199,803					
		従事した割合②/人	0.2	0.2					
		A + B	6,273,652	4,438,640	0				
単位コスト	活動指標の説明		事業費/処分量	事業費/処分量			備考		
	活動指標 1 単位当たりコスト		51,005円/ト	33,882円/ト			平成23年4月1日現在 人口41,204人		
	市民一人あたりのコスト		152	109			平成24年4月1日現在 人口40,876人		

■事業を取り巻く環境

	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測)
国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	道路管理主管課で道路の付帯物として業務を実施しているのが一般的であり、衛生部門で業務実施をしているところは少ない。市が管理している側溝、水路を予算の範囲内で順次計画的に実施するにしても、管理状況の把握が必要であり、将来的には道路管理主管課で事業を一元化していく必要がある。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 生活環境の保全や公衆衛生の向上に寄与しており今後も事業を継続してほしい。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	側溝は道路の付帯設備であり、道路の雨水排水は元より、地域生活排水の受け皿にもなっているため、清掃を行うことにより冠水や悪臭・害虫の発生を防ぐ必要な業務である。住民からの要望が多い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	地域により、側溝清掃を実施している所もあるが、要望箇所が年々増えている。側溝の老朽化により、清掃だけではきれいにならない所もあり、住民のニーズに応えられない場所もある。市の管理する道路側溝や水路の清掃ではあるが、直営で行う必要は必ずしも無く、将来的に民間委託等も含め検討する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	資源ごみ(びん・ガラス類)の収集と兼務しているため、パキューム車による汚泥の吸引作業が毎週一回しか出来ないため効率が悪く、住民ニーズに素早く対応が出来ない時期があり、依頼から実施するまでに、数ヶ月待ちの場合もある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	近年発生するゲリラ豪雨や台風等により側溝から排水が出来なくなった場合、浸水の恐れもあり梅雨時期の前は側溝清掃依頼が集中する。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	依頼から実施するまで時間を要す時もあるが、通水に障害をなす汚泥や水草の排除等、側溝を確実に清掃できており生活環境の保全に寄与している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	びん・ガラス類の収集業務を主として、その作業がない日(水曜日)を側溝業務にあてているため、依頼ペースに追いつけない状況にある。作業日数を増やすことにより改善できるが、専門作業員等人数の確保が必要となり、職員の定数適正化を進めている現状では、環境衛生センターだけではなく、組織上の問題と捉えて、業務実施のあり方について検討する必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評 価	3	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定 評価点 72 2	判定に至った理由 依頼を受けてから実施までに時間が掛かる場合があり早期に対応するため増員等したいところはあるが、現状の体制では困難である。また、依頼があつて業務を実施する状況のみになっていることから、将来、市が実施場所など計画的に業務を実施していくのであれば、道路管理主管課で計画策定、作業実施など統合して業務を実施する方が効率的であると思われる。
		2 現状のまま継続する	60～79点		
		3 改善・効率化し継続	50～59点		
		4 見直しの上縮小する	40～49点		
		5 終期設定し終了	30～39点		
		6 休 止	20～29点		
		7 廃 止	19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】
現在の限られた職員数では効率良く作業することは、年々厳しくなる事が予想され、また処分の問題もあり将来的には民間委託の方向で検討する必要がある。

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評 価	3	1 拡 充 す る	判定説明 道路側溝に、生活排水が流される以上は、必要な事業であり側溝管理、衛生上の観点からも重要な事業であり、市が責任を持って継続する必要がある。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	